

国語科（書写）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○目的や必要に応じて、文字を選んで効果的に書かせる学習について、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○生徒が主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <p>○毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜各教科や社会生活との関わり＞</p> <p>○書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料の内容には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料の配置や手本との関連には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○用語・記号などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材の内容や解説・説明の仕方について、生徒の言語能力の発達の段階に応じて、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい書写</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。六つの過程を設け、単元を展開している。学習事項を確かめながら、知識や技能の定着を図ろうとしている。 ○毛筆では、穂先の動き等の基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示している。硬筆で書き方を確認させてから、毛筆で課題に取り組むようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけよう」で書体を比較させたり、その差異の理由を考えさせたりすることで、学習のポイントを意識できるよう構成している。 ○単元の終末で、目的に応じた表現の仕方について学び、必要な情報を選択する等、段階的に演習を交えながら実生活に生かせるよう構成している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」で、①目標を確かめる②「書写のかぎ」を見つける③書いて確かめる④生かして書く⑤振り返って話す⑥生活に広げる、という流れを説明している。 ○「振り返って話そう」では、学習の目標と連動した自己評価項目について、自分の言葉で説明することや、話し合い活動を通して振り返らせるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本点画を学ぶ際、「見つけよう」という項目があり、硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」という項目で毛筆の点画の書き方へと生かす流れになっている。 ○単元の終末に「生かそう」という硬筆教材を設定しており、毛筆の点画を書く際に学んだことを硬筆にも生かせるよう関連を図っている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年、「生活に広げよう」という項目を設け、本のポップ作り等、生活の様々な場面を通して社会生活との関わりを示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢と筆記用具の持ち方」について写真を使って解説している。また、「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体を併記している。 ○巻末の「書写活用ブック」で様々な書式や漢字表を取り上げている。また、随所にコラム「文字のいずみ」を設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○Dマークがある単元では、デジタルコンテンツが提供され、インターネットを使って毛筆教材文字の運筆動画等を見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。学習の中心事項について文字色を変えて記し、学習課題に結びつくよう工夫している。「始筆・送筆・終筆」を「とん・すう・びたっ」と示し運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習事項を明確にし、単元を対話的に振り返る工夫をしている。 ○書写での学びを日常に生かす活用力を養う教材で、国語の学びを支え、他教科に学びが広がる構成となっている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の書写</h1>	15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三省堂</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。七つの過程を設け単元を展開している。具体的な字形例をもとに、書き方のポイント示している。 ○毛筆の筆使いに、筆圧・穂先の動きを朱墨・淡墨で示している。繰り返し硬筆で練習することにより学びの定着を図ろうとしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけよう・考えよう」の問いによって、文字の書体を比較しながら書き方のポイントを見つける等、単元の課題を意識して学習を進められるよう構成している。 ○学年ごとに場面に応じた効果的な文字の選択等、学習したことを生かせるよう手順を示しながら表現活動ができるよう構成している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の流れ」で、①目標を確かめて学習の見通しをもつ②書き方のポイントをつかむ等、七つの過程を示し学習の仕組みを説明している。 ○「振り返ろう」では、学んだことを意識させながら書かせることで、学んだことが活用できているかを確認し、枠に直接記入させるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本点画を学ぶ際、毛筆で点画の特徴を学んだ後、「書いて身につけよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆の関連を図っている。 ○毛筆で書いて習得したことを、他教科や日常生活でも硬筆で活用できるよう書き込みをさせ、学習の振り返りができるようになっている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年、「やってみよう」の項目を設け、グループ新聞や地域の情報誌を作る等の取組を通して社会生活との関わりを示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習のはじめに」では姿勢と筆記用具の持ち方を、写真やイラストを使って解説している。また、「楷書・行書一覧表」では楷書体と行書体を併記している。 ○巻末の「資料編」には「日常の書式」「文房四宝」「書き初め」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○教科書に掲載されている二次元コードを読み取ることで、硬筆・毛筆の姿勢や持ち方、筆の運び方などの内容が見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。学習の中心事項を文章で記し、学習課題に結びつくよう工夫している。筆圧を「始筆は強く。徐々に軽く。」等、文章で示し、運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材を見開きで構成し、学習内容を一覧で示している。 ○学習したことを多様な場面で活用できる力を身に付ける教材で、文字文化の担い手として関わり方を考えられる構成になっている。 	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」を示し、学習の見通しが持てるようにしている。五つの過程を設け単元を展開し、基礎・基本の定着を図ろうとしている。 ○毛筆では、基本的な点画や穂先の動きを二色の薄墨で示している。硬筆で「試し書き」をしてから毛筆での書き方を学ばせるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」の問いで、文字同士を比較したりその差異の理由を考えたりしながら学習のポイントを意識できるよう構成している。 ○「学習を生かして書く」では効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、学年ごとの学習内容を活かして表現活動に取り組むことができるよう題材を設定している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」で、①目標を確かめ、試し書きをする②課題を見つける③生かして書く④学習を振り返る⑤学習や日常生活に生かす、という流れを説明している。 ○「振り返ろう」では、学習の目標と連動した自己評価項目に照らし合わせながら、「○＝できた △＝もう少し」から選び、枠に直接記入させるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「試し書き」で硬筆、「考えよう」で毛筆の課題を見つけ解決し、「生かそう」で再度硬筆の書き方を学習する流れになっている。 ○基本点画を学習する単元の終末に、これまで毛筆で学習したことを硬筆で確認できる「学習を生かして書く」という教材を設けている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校生活に生かして書く」等の項目で、レポートの書き方や書体の活用例等を紹介し、社会生活との関わりを示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢と用具の使い方」について写真を使って解説している。また、「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとの部首別に楷書体と行書体を併記している。 ○巻末には、「書式の教室」「書き初め」「補充教材集」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○「まなびリンク」マークのある教材では、教科書に掲載されている毛筆教材について書いている様子を真上から撮影した動画を見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右ページに学習目標と教材文字、左ページに学習の流れを配している。学習の中心事項について、書き込み欄を設けて記し、学習課題に結びつくよう工夫している。筆圧を「1の力・2の力・3の力」と示し、運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○系統的・段階的に見通せる構成、教材配列になっている。 ○主体的・対話的で深い学びへ向かえるよう、話し合い活動が盛り込まれ、生きてはたらく書写力、思考をはたらかせて書く国語の表現力を高める教材を掲載している。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学書写</h1>	38 光 村
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。三つの過程を設け単元を展開し、知識・技能の定着を図ろうとしている。 ○「書写ブック」を用いて硬筆課題に取り組み、毛筆での学習を定着させようとしている。毛筆では、筆使いや穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」の問いにより、文字を観察・比較等することでその差異に気付き、自ら学習のポイントを見つけられるよう構成している。 ○単元の終末に「読みやすさ」を目指した効果的な文字の選択や相手の設定等、学習を生かした表現活動に取り組めるよう構成している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」で、①課題について考える（学習の窓）②書き方を確かめ、毛筆で書く③学習したことを生かして書く（学習を振り返る）、という流れを説明している。 ○「学習を振り返る」では、学習の目標と連動した自己評価項目に照らし合わせながら、振り返らせるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆による基本点画を学習した後、学習したことを生かして硬筆で書く、「生かそう」という教材が設定され、毛筆と硬筆の関連を図っている。 ○毛筆の点画を書く際に学んだことを硬筆においても確かめられるよう「書写ブック」という硬筆教材を設けている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日常に役立つ書式」や「国語・学校生活」の項目で、手紙の書き方や壁新聞の作り方等の活用例を示し、社会生活との関わりを示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢、筆記用具の持ち方」について写真を使って解説している。また、「常用漢字表」「人名漢字表」は楷書体と行書体を併記している。 ○巻末には「日常に役立つ書式」「書き初め」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○二次元コードで示された「教科書連動コンテンツ」では、用具の準備や運筆など学習に役立つ動画を見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きで学習目標と学習の流れ、次ページに教材文字を配している。学習の中心事項を文章で記し、学習課題に結びつくよう工夫している。「始筆・送筆・終筆」を「トン・スー・トン」、筆圧を「1・2・3」と示し、運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」とともに、学習のポイントを「学習の窓」で示している。 ○「書写ブック」で、毛筆で学習したことを硬筆で繰り返し学習できるよう工夫している。書写で身に付けた力を、社会生活に生かせるような教材を掲載している。 	

国語科（書写） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数	1年	146	130	146	158
	2年				
	3年				
2 単元数	1年	3	3	3	2
	2年	3	3	3	2
	3年	1	1	3	1

○指導事項等の教材数について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村		
1 総教材数 ※本編中における主たる手本の数	1年	6	8	8	6		
	2年	6	5	6	5		
	3年	1	1	3	3		
2 手本の種別数	毛筆	漢字の楷書及び 調和した仮名	1年	2	2	2	2
			2年	0	0	0	0
			3年	0	0	0	0
	硬筆	漢字の行書及び 調和した仮名	1年	2	3	3	3
			2年	4	3	3	4
			3年	1	1	2	2
3 教材の扱い種別数	硬筆と毛筆との関連を図った教材数	1年	7	5	8	4	
		2年	5	4	4	4	
		3年	0	0	2	0	
	目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書く教材数	1年	0	1	1	0	
		2年	3	2	1	1	
		3年	2	1	1	1	
	社会生活に役立つ学習のための教材数	1年	3	1	2	1	
		2年	2	1	2	2	
		3年	1	1	1	1	